

保育の現場から

お店屋さんごっこをめぐって

吉岡晶子



「いらしゃい、いらつしゃい」「お店屋さんに来てく
ださい」などのかけ声。お花屋さん、あめ屋さん、
ネックレス屋さん、くじびき屋さんなど、幼稚園では
毎年見られるお店屋さん。子どもたちは本当にお店屋
さんが大好き。大きくなったらなりたいもの、あこが
れの職業にも必ずお店屋さんが入っています。

年長ともなると、お店屋さんも計画的になり細部に
もこだわるようになります。どこにお店屋さんを出す
か相談したり、商品も、より本物らしくなるように材

料を選んだり、作り方に工夫を凝らしたりし、お客さ
んの注文に応じて作ったりもしています。作る人、接
客する人、お店の設営に力を注ぐ人など、それぞれ役
割を担い、呼び込み宣伝にもひと工夫あって、営業に
も力が入ってきます。自分たちのイメージの実現に向
けて力を注ぐでしょう。

本園には、各保育室をつなぐ真っ直ぐな長い廊下が
あります。子どもたちも経験から、廊下に場所をとっ
たほうがお客さんは大勢来てくれることを知っている

のでしょうか。お店が出ない日はないといっても過言では
ありません。いろいろなお店が並ぶと商店街の大売
出しのようになり、三歳児はお客さんとしてたびたび
お呼ばれし、何度も買い物に出かけています。

今回担任した三歳児のクラスでも、繰り返しお店屋
さんが繰り返し広げられました。それぞれに、そのときの
思いがあつてのお店、どのような変遷があつたかをた
どつてみたいと思います。

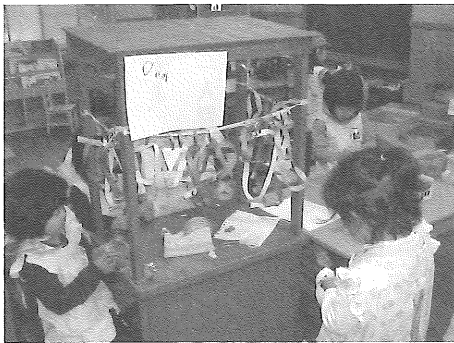
お店登場

各クラスには屋台のようなお店屋さんにぴったりの
「台（下写真）」があります。

五月のある日、女児二人が「お店にしよう」と言っ
て、何やら紙を「台」に張り付け始めました。でも、
何か売る気配はなく、看板のように紙を貼ったり、ま
まごとの茶碗やお皿を並べたりし、周囲の子どもたち
にもあまり気付かれることなく、二人で楽しんでいま

した。年長児が「台」を使ってお店屋さんをしている
のを見たことはあるのですが、子どもたちに、私
からこの「台」のことを、「お店」という言い方をし
たことはありませんでした。まだ遊びのイメージも淡
いこの時期に、ものに対して、直接触れ、試し、いろ
いろな感覚を味わつてほしいという思いがあり、この
「台」のことも、「こうするとお店になる」などという
提示はしていません
でしたし、お店らし
い「かたち」になる
のはもっとゆっくり
でよいと思っていま
した。

一学期の間も、こ
の「台」はいろいろ
活躍しました。隠れ
る所だったり、お家



ごっこの一部として使われたりすることが多くありましたが、一度も廊下に運び出されてお店屋さんになったことはありませんでした。

廊下に出たけれど

九月のことです。年長児が保育室に、花火を持ってやって来て「こうやって作るとできるよ」（紙の棒に紙テープを数本付ける）と、作り方を教えてくれました。子どもたちがまねをして作ると「お店屋さんにしたらどう？」と提案してくれました。三歳児の子どもたちは、作ることに夢中になっていて、乗り気ではなかったのですが、年長児はすっかりその気になり「廊下でやるといいよ」と「お店の台」を廊下に運んでくれました。「廊下で初めてお店屋さんが開店かしら」と、ちょっと成り行きが楽しみになりました。でも子どもたちは「お店の台」にそろそろついて来たものの、花火作りに専念。「いらっしやいませ、いらっしやい

ませ」と、年長児は宣伝してくれるのですが、三歳児はあまりその雰囲気になっていません。そのうちに年長児は去って行ってしまいました。せっかくのお店なので、私が「花火屋さんですよ、いかがですか？」など言ってみましたが、私の一人舞台でした。

その様子を見て「作ることが楽しいときは、品物作りがお店屋さんで、売り買いに気持ちは向かないであろう」「保育室から一歩踏み出して場を作るのはとても勇気のいること、まだ保育室の中のほうが安心できる場なのでは」「もし自分たちの保育室の中だったら年長さんのまねをしたのかしら」などいろいろ考えさせられました。「子どもたちは自分たちの遊びの場をどのように選び、変えていくのか」「これからお店屋さんごっこがどうなっていくのか」「廊下の商店街に開店するのはいつなのだろうか」など、お店さんの変遷をゆっくり見ているこう、でも「廊下にお店を出したら」とは言わないようにしようと思いました。

みんなでお店屋さん

翌々日、「お店の台」を使ってアイス屋さんが始まりました。場所は保育室。人数も増え、「いらっしやいませ」の声も聞こえてきます。私は客になってひたすらアイスを食べ続けました。場所を広げ、大にぎわい。わいわいがやがや、それぞれが喜々とした表情でしたが、よく見るとかけ声をかけて売っているのは、ほんの数人。ほかの子どもたちは製作に夢中。でも、そのうちに誰かが隣のクラスに誘いに行ったらしく、子どもたちが買いに来てくれました。みんなそれぞれのお店屋さんになってとても楽しそう、いろいろなかわり方が可能なお店屋さんでした。やはり、自分のクラスの保育室だったからこそのにぎわいだったのでしょうか。

その後数日の間は、A子、B子、C子たちが入れ替わり「お店の台」を前に座っていました。場所はたま

たま「台」が置いてあったところで、特に動かしては
いません。「台」を挟んで「お店の人側」と「お客さ
ん側」の違いはあるようで、自分たちはお店の人とい
うつもりがあるのか「お店の人側」に並んで座ってい
ることが大事なようでした。お客さんはいなくても、
狭い所に横並びしておしゃべりしながら、手を動かし
てあめやアイスを作っていました。

十月、あめ屋さん流行。その後、ネックレス屋も登
場。自分のクラスの保育室の中で開店し、隣の組にも
宣伝に行き、買いにきてもらったりしていました。や
はり、ホームグラウンドが安心して取り組める場だっ
たのでしょ。

廊下に移動はしたけれど

十二月、初めて自分たちで「お店の台」を廊下に運
び出しました。とうとう廊下で開店かしらと思ったの
ですが、そこは「おうち」でした。「台」は家財道具

の一つ。いつも保育室でおうちごっこをしている仲間
みんなで、キッチンセットやテーブルも運び出しまし
た。そのうちに「いらっしやいませ」の声が聞こえて
きました。売り場はどこやら、何を売っているのやら
わからないのですが、行ってみると、以前作ったネッ
クレスを持ち出して売ってくれました。

このころは、ままごとのキッチンセットや机、椅子
など、室内にある遊具をあちらこちら移動して遊ぶよ
うになっていました。動かして場を作ることが楽し
かったのです。廊下も自分たちの場として使うよ
うになり、ささやかなお店はおうちの一部でした。

廊下で開店

一月。はじめてA子が「あっちへ行っていきたい」
と「お店の台」を廊下へ運びました。A子は控えめで
友達がしていることや周囲の様子をよく見ており、製
作が大好き。そのA子が一人で「お店の台」を動かし

て一人で座り、あめ作りを始めました。やや緊張感が
漂っていましたが、黙々と作り、品物ができると「先
生、買いに来て」と誘いにきました。

お店屋さんを自分がやりたいと思ったとき、そのと
きには、たった一人でも、廊下を選び、お客さんが来
なければ、自分で呼びに行く、その行動力に感心しま
した。廊下のお店は、自分のクラスの保育室とは違っ
て、誰が買いに来るかわからない、不特定多数を想定
することになります。それに向き合う覚悟とっては
大げさですが、自信と余裕があるのでしよう。この時
期のA子を見てそう思いました。

お部屋でアイス屋さん

二月。寒いのにアイス屋さん。初めはお店ではな
く、アイス作りでした。今回は、コーンタイプのアイ
スです。「チョコ味が好き」「バナナ味ね」「お父さん
も大好き」などおしゃべりしながら作っていると、

「アイス屋さん、アイス売ってます」とのこと。「どこ？」と聞くと、先程まで大勢で遊んでいたおうちの一角での開店。作っていた子どもたちは、おうちごっここのメンバーで、おうちごっここの流れの中での開店でした。お客さんが来ると「一列に並んでください」「食べたら返してください」の声。年長・年中さんに言われてきたセリフにそっくり！ポイントカードを配っている子あり。「持ち帰りできます」の言葉も聞こえてきました。年長さん顔負けの応対で、年長さんのように相手に言葉を返すことがうれしそうで、とても自信ありげに見えました。

お店屋さんにしてよと思って始めるお店屋さん、お店屋さんにしてよと思って始めたわけではないのにつのまにかお店屋さん、始まり方はさまざまですが、やっぱりホームグラウンドの自分のクラスの保育室が安心なのでしょ。自分たちから外に出ていくよりも、

自分たちが安心できる場にお客さんに来てもらうのが自然なのかもしれない、そして、そこにこれまで自分が体験してきたこと、年長さんから刺激を受けたことを取り入れて実現していく場としてのお店屋さん、三歳児のお店さんはそういうものなのかと改めて思いました。

私は「お店の台」と「廊下に開店すること」にこだわってしまいましたが、お店も「台」に限ることではないし、もちろん無理に廊下に出すべきものでもないでしょう。お店に限らず、子どもたちは、いろいろな体験を積み重ねながら自分の安心できる場を見つけ、広げ、そのときそのときの思いで遊びの場を見つけていくのです。自分の保育室から飛び出して広がっていくこと、ゆっくりゆっくり場所を選んでいくということ、そこには選んだだけの理由があると思つづく思いました。そのときの思いを支えて、一緒に楽しみたいと思います。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)